

調査速報

外食需要動向（2017年10月）

台風や雨天の影響により、外食産業全体の客数が14か月ぶりに前年水準割れ

主任研究員

佐橋 官

045-225-2375

sahashi@yokohama-ri.co.jp

要約

- 2017年10月の家計の実質外食支出は前月比1.4%減と、3か月ぶりに前月の水準を下回った。
- 一方、同月の外食産業売上高は前年同月比0.1%増と、僅かながら前年の水準を上回った。
- 外食産業全体の客数は前年同月比1.0%減と14か月ぶりに前年の水準を下回ったが、客単価の伸びは同1.1%増と堅調に推移した。

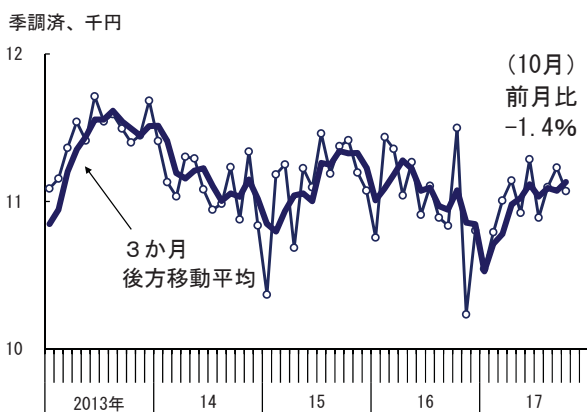
1. 2017年10月の家計の実質外食支出は3か月ぶりに前月比マイナス

12月1日に総務省が発表した2017年10月の「家計調査」によると、全国の1世帯あたり実質外食支出（2人以上の世帯、学校給食を除く、季調済）は前月比1.4%減と、3か月ぶりに前月の水準を下回った（図表1）。当月は2週連続で台風が本州に上陸、接近したことや、1か月を通して雨天が多かったこと等が影響したと推察される。なお、3か月後方移動平均でみたトレンドは横ばい基調が続いている。

2. 外食産業全体では14か月ぶりに客数が前年水準を下回る

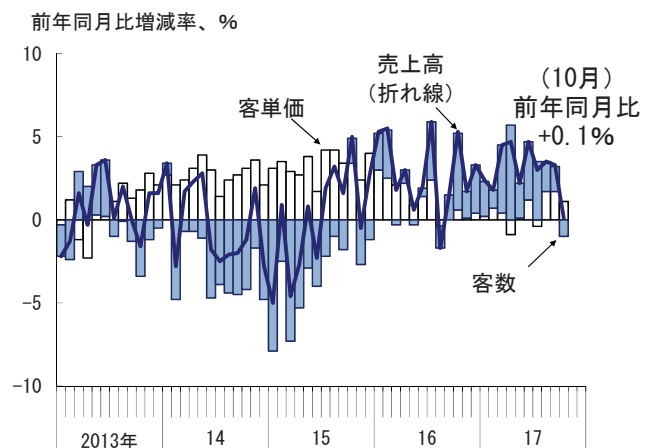
これに対して、一般社団法人日本フードサービス協会が11月27日に発表した10月の外食産業売上高は前年同月比0.1%増となり、14か月連続で前年同月の水準を上回ったものの、僅かな伸びに留まった（図表2）。売上高の伸びを客単価と客数の伸びに分解すると、前述の台風や雨天の影響等により、10月は14か月ぶりに客数の伸び（前年同月比1.0%減）が前年の水準を下回った。一方、客単価の伸び（同1.1%増）は前年同月の水準を上回った。人件費や食材などのコスト上昇を受けてメニュー価格の引き上げに踏み切る外食チェーンが増えていること等が客単価の押し上げ要因となった。

図表1 10月の実質外食支出は3か月ぶりに前月比マイナス（全国、2人以上の世帯、季調済）



注1：学校給食を除く外食（一般外食）。
 注2：実質化と季節調整は浜銀総合研究所が実施。
 出所：総務省「家計調査」より浜銀総合研究所作成

図表2 外食産業全体の客数は14か月ぶりに前年同月比マイナス（全国、全店）

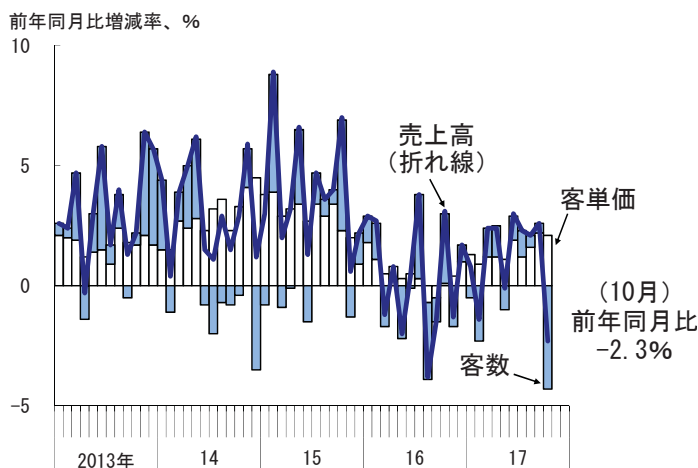


注1：全店とは、既存店と新規店の合計。
 注2：売上高と客単価は税抜き価格による比較。
 出所：一般社団法人日本フードサービス協会「外食産業市場動向調査」

3. ファミリーレストラン業態で客数が大きく落ち込む

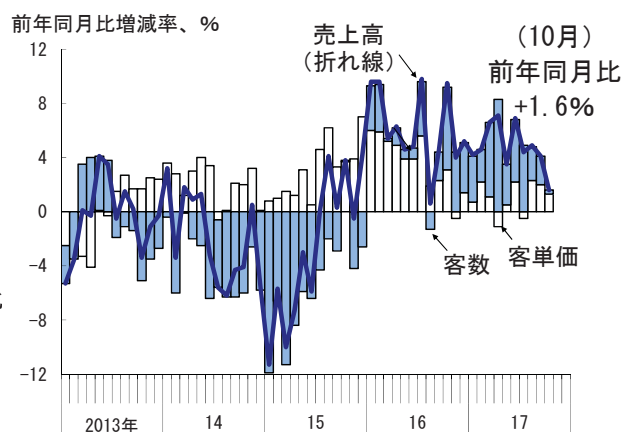
業態別の動きをみると、悪天候の影響が大きかったのはファミリーレストラン業態であった。同業態の客単価は前年同月比2.1%増と2か月連続で同2%超の高い伸びを示したものの、客数は同4.3%減と大きく落ち込み、売上高を押し下げた（図表3）。一方、ファストフード業態では客数が同0.3%増と前年の水準を上回り、また客単価も同1.3%増であったため、同業態の売上高は前年同月比プラスを確保した。

図表3 ファミリーレストラン業態の客数は大きく落ち込んだ（全国、全店）



注1：全店とは、既存店と新規店の合計。
 注2：売上高と客単価は税抜き価格による比較。
 出所：一般社団法人日本フードサービス協会
 「外食産業市場動向調査」

図表4 ファストフード業態では客数が前年同月の水準を上回る（全国、全店）



注1：全店とは、既存店と新規店の合計。
 注2：売上高と客単価は税抜き価格による比較。
 出所：一般社団法人日本フードサービス協会
 「外食産業市場動向調査」

4. この先も客単価の伸びが外食産業売上高の押し上げ要因に

10月は台風や雨天等の特殊要因による影響が大きかったものの、足元では家計の外食マインドが改善傾向にあり、また、外食産業では客単価の上昇圧力が強まっている。今後も人件費の上昇や食材価格の上昇等を受けて、外食産業ではメニュー価格引き上げの動きが続くと予想されており、この先も外食産業の売上高は客単価の伸びが押し上げ要因として働くと推察される。

本レポートの目的は情報の提供であり、売買の勧誘ではありません。本レポートに記載されている情報は、浜銀総合研究所・調査部が信頼できると考える情報源に基づいたものですが、その正確性、完全性を保証するものではありません。